

2019 年度(令和元年度)ノロウイルス等検出状況

2020 年(令和 2 年度)3 月 31 日現在
環境保全研究所

2019 年度(令和元年度)に発生したノロウイルス等による食中毒等集団感染事例(疑い事例も含む)の調査において、当所で 18 事例のノロウイルス検査を実施したので、その検出状況を報告する。

18 事例のうちノロウイルスが検出されたのは 11 事例(61.1%)であった。疑い事例は年間を通じて発生したが、ノロウイルスが検出された事例は主に冬季～春季(12 月～5 月)に多発していた。例年、夏季において疑い事例が発生してもノロウイルスの検出は少ないが、2019 年度は 8 月と 9 月に発生した 1 事例ずつノロウイルスが検出された(図 1)。

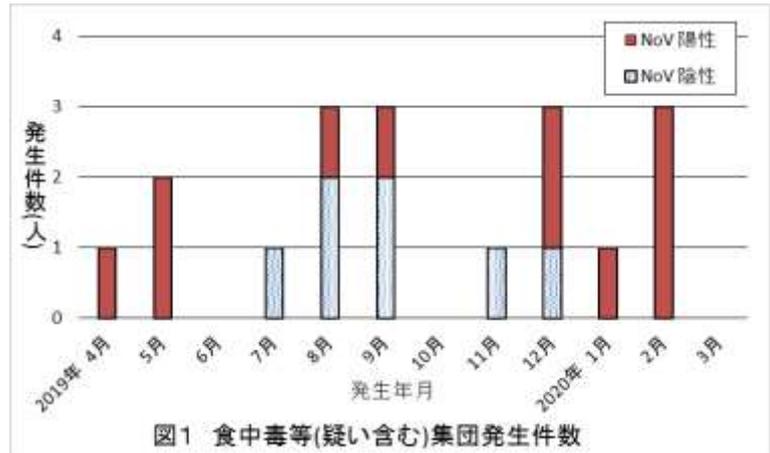
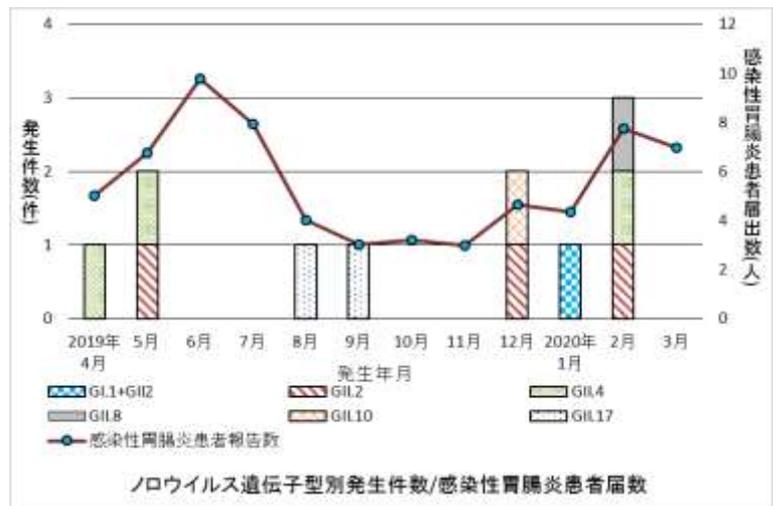


図 2 は、検出されたノロウイルスの遺伝子型別発生件数と定点あたりの感染性胃腸炎患者届出数(定点あたりの報告数)を示した。市中感染の目安となる定点あたりの報告数は、夏季では例年どおり低値であることから、8 月・9 月にノロウイルスが検出された事例は、たまたまノロウイルスを保有していた患者による単発的な発生と思われた。

ゲノムグループ別の検出状況は、GI のみ検出された事例はなく、GII が検出されたのは 10 事例で(90.9%)、GI と GII が共に検出されたのは 1 事例(9.1%)であった(図 2)。さらに事例ご



とに検出されたウイルス株を無作為抽出し、ダイレクトシーケンス法により VP1 領域(GI:381bp、GII:387bp)の塩基配列を決定することで遺伝子型別を行ったところ、検出された GII の遺伝子型は、GII.4 が 3 事例、GII.2 が 3 事例、GII.17 が 2 事例、GII.8 が 1 事例、GII.10 が 1 事例で、GI と GII が共に検出された 1 事例は GI.2 と GII.2 であった。

2018 年度後半に、全国および県内で GII.4 が検出された事例が増加したことから、2019 年度は GII.4 が流行の主流となると予想されていた。しかし年度前半に同一地域で 2 件の GII.4 を原因とする事例は発生したが、夏期には GII.17 が、ノロウイルスのシーズンに入ってからからは GII.2、GII.8、GII.10 など多様性に富んだ遺伝子型が地域集積性もなく検出されていることから、当県ではノロウイルスの流行期においても主流となる特定の遺伝子型はなく、様々な遺伝子型が蔓延していた可能性が推察された。全国の報告でも、GII.2、GII.4 の検出は多いものの、GII.3、GII.6 なども検出されていた。

例年 3 月には多くの事例が発生している。しかし 2019 年度は 1 事例の発生も認められなかった。その要因の 1 つとして、12 月に中国湖北省武漢市で突然発生した新型コロナウイルスの日本国内における感染拡大の影響による可能性が考えられた。ノロウイルスは、前年度と定点あたりの報告数に大きな相違はないことから、例年とおり市中では流行していたと思われ、その上同時期に新型コロナウイルスの新規感染者も急増していた。そのため感染拡大を少しでも抑えようと、各地方自治体では大人数での集会自粛を広く呼び掛けていたことから、集団感染の機会は減少し感染事例の発生は抑えられた可能性が推察された（政府が緊急事態宣言発令したのは 4 月）。